

けいはんな情報通信オープンラボシンポジウム2018 開催結果

○日時：2018年11月19日(月) 13:00～17:15
 ○場所：スイスホテル南海大阪(大阪市中央区)
 ○来場者数：103名(交流会46名、アンケート回収数54)
 ○主催：けいはんな情報通信オープンラボ研究推進協議会
 ○共催：(公社)関西経済連合会、(国研)情報通信研究機構、総務省近畿総合通信局、(公財)関西文化学術研究都市推進機構
 ○概要：関西が強みを持つ分野である観光やインバウンドについて、ビッグデータの活用を通じて、関西の観光の活性化やさまざまな課題の解決につなげていくことを趣旨とし、産学公の第一線の方々よりご講演をいただきました。会員のニーズ調査の結果から本テーマとしましたが、予想以上の出席があり観光分野への関心の高さを改めて実感しました。パネルディスカッションも実施し、会場からも活発な質疑が行われました。出席者からは、各方面のバランスの取れたプログラムであった、観光ビッグデータ利活用への期待や意気込みを感じたなどの感想をいただきました。

- プログラム「ビッグデータを活用した観光振興に向けて」
- ◆開会挨拶 九津見 洋氏(当協議会理事、運営・研究部会長)
 - ◆講演「関西インバウンドの課題と展望ービッグデータの活用の方向性ー」 稲田 義久氏(甲南大学総合研究所所長・教授、アジア太平洋研究所数量経済分析センター長)
 - ◆講演「持続可能で満足度の高い国際文化観光都市を目指して」 西松 卓哉氏(京都市産業観光局観光MICE推進室観光戦略課長)
 - ◆講演「『住んでよし、訪れてよし』の超快適スマート京都の創出に向けて」 島田 和幸氏(京都府商工労働観光部文化学術研究都市推進課未来都市創造担当課長)
 - ◆講演「観光ビッグデータを使ったインバウンド対策の現場」 柏木 祐輔氏(株式会社ナイトレイ取締役COO)
 - ◆講演「インバウンド観光におけるデータ利活用の可能性」 佐藤 彰洋氏(京都大学大学院情報学研究科数理工学専攻特定准教授、科学技術振興機構さきがけ研究員)
 - ◆パネルディスカッション
 - ◆閉会挨拶 小野寺 昭彦氏(総務省近畿総合通信局 情報通信部長)
 - ◆交流会



九津見 洋氏



稲田 義久氏



西松 卓哉氏



島田 和幸氏



柏木 祐輔氏



佐藤 彰洋氏



小野寺 昭彦氏



パネルディスカッション



講演会場



講演会場



交流会



交流会会場からの夜景